

観光ボランティアガイドのひとりごと

「知る人ぞ知る」だけでは、もったいない。近江八幡の古代に思いを巡らす。

西川秀夫

最近、ボランティアガイドをして思うことだが、ヴォーリズ建築や八幡城址と八幡堀や八幡商人の街並みを散策する観光客は随分増えたように思う。また大河ドラマの影響で安土城跡やその城下巡り、長命寺・観音正寺の西国33か所巡りの観光客も増えていると聞いているし、中山道ウォークで武佐宿を中心とした長光寺や伊庭貞剛生家跡周辺のガイドの需要も伸びている。しかしである。そこで表題の件に思い至るわけだが、その切っ掛けは、日牟礼八幡宮にある。691年藤原不比等が詠んだとされる「天降りの神の誕生の八幡かも ひむれの社になびく白雲」の和歌にある。ここから日牟礼社と改められたと云われるが、その前の273年、応神天皇が母・神功皇后の出身地息長に行幸の途中に奥津島神社に参拝の折、この社の近辺に御座所が設けられ休息した。その後、御座所跡に日輪の形が2つ見えたので祠を建て「日群（ひむれ）の社」と称されていたというのである。（余談であるがVG会員のY氏から日輪の形を2つ見えたという市内のある場所で撮った不思議な現象の写真を見せてもらったことがある。スマホ写真だから合成ではなかった。）応神天皇の行幸の際に津（南津田）から松明で先導したのが八幡祭の起源とされているが、市井氏の説明がないので不十分であるが、これは後述する。991年一条天皇の勅願により宇佐八幡宮を八幡山の山頂に勧請して八幡宮を祀った。ここで日牟礼と八幡宮の名前が合体（習合）するのであるが、先述の藤原不比等の和歌にある「八幡」は何なのか。八幡宮の勧請が991年で、不比等の歌は691年で300年の差があるという疑問である。元来は秦氏系の鍛冶の神（八幡神）が応神天皇と何故結びつくのか分からない部分でもある。鍛冶の神とすれば古代近江は息長氏（日本武尊伝説＝伊吹山の神＝大蛇＝ヤマタノオロチの化身＝伊吹童子）、三上氏（＝天御影命＝天目一箇神）などの鍛冶集団ばかりになってしまう。（余談だが稲荷も元は鑄成いなりで秦氏系の鍛冶の神であった。農耕具を制作したことから稲成・稲生となったのである。）なお、不比等の時代には既に応神天皇は八幡神と同一と考えられているのであれば、この八幡は→応神天皇と読めば納得はできる。九州福岡に住んでいる長男の子の初宮詣は偶然にも「宇美八幡宮」（宇美町）であった、その神社は神功皇后が応神天皇を生んだ場所で八幡大神御降誕の聖地でした。「御産舎の四辺に八つの幡（ヤハタ＝ハタは秦、ハタ→海とする）を立て、兵士に守らせた故事」があり、「後世八幡大神と称するは此故なり」と社伝にも伝えられていました。なお「781年朝廷は大仏建立を助けた宇佐八幡に仏教守護の神として八幡大菩薩（はちまんだいぼさつ）の神号を贈ったとの記述もある。」つまりは大仏の銅等の提供は宇佐からのものなのである。ここに秦系の技術・職能集団が関わっていたということである。また記紀の近江に戻るが、応神天応が行幸の際に「和邇日触使主（ひふれのおみ）」の娘の宮主宅媛を見染めて妃にした記述がある。「和邇」とは「稲羽の素兔」物語に出てくる兔を裸にして乱暴した「ワニ」のことである。「ワニ」族は海洋民族で海人族といわ

れた、阿曇（安曇）族、息長族と同じ近江の古代豪族でもある。（息長氏は別エリアとして、地名的には安曇氏と和邇氏は混在している。それは和邇氏も安曇氏も元は海人族という同族であったからであろう。志賀町の中に和邇があり、和邇の日牟礼の隣に安曇の地（アドチ＝安土）がある。）とにかく和邇の日触使主の系統で市井・一井（いちい）氏が日牟礼社の神職を務めたとある。（またまた余談だが、一井氏と三井氏は関係あるという話。14世紀ごろ市井氏・一井氏が日牟礼八幡宮の神職を目賀田氏に相伝したと日牟礼八幡宮文書にある。目賀田氏は佐々木源氏に仕えた豪族でもあり、その出自は和邇氏と考えられる。その目賀田氏の同族に三井氏がいる。あの越後屋の三井氏である。）和邇氏の系統（派生）には市井氏の他に春日氏、小野（妹子）氏、柿本（人麻呂）氏、山上（憶良）氏などがある。参考までに関連神社としては小野神社（滋賀県）、柿本神社（奈良県）、浅間神社（あさま、山梨県）、浅間（セゲン）神社（富士宮市）などがある。和邇氏以外の古代近江の豪族には息長氏、安曇氏、安（国造）氏、三上（天御影命）氏などがいるが、それら氏族の話は又、別の機会に回して、話を先に進めよう。「和邇日触使主（ひふれのおみ）」の娘「宮主宅媛」は「菟道稚郎子（うじのわけいらつこ）」という皇子を生んだ。菟道稚郎子は同じ応神天皇の皇子である兄の大鷦鷯尊（おおさざきのみこと）＝後の第16代仁徳天皇と王位を争い自殺したという。つまりは敗れて殺されたのでしょ。菟道稚郎子は、王仁（ワニ博士）を師として学んでいる。ん！ここにも「ワニ」が。その皇宮があった処には「宇治神社（二座）」が創建されている。藤原の時代に宇治川を挟んで宇治の平等院が建てられ鎮守の社とされた。つまり宇治神社の祭神である菟道稚郎子が阿弥陀仏を安置した平等院がある西方を拝するという図式である。現在この周辺には菟道（とどう＝ウサギの道と読める）小学校や菟道高校があつてびっくりした。さらにこの宇治神社には「うさぎ」が関係していた。つまり稲羽の「うさぎ」と「ワニ」である。まだまだ私の知らない縁起があるのだろうか？宇治の平等院を見学するなら是非、宇治神社にも参詣してください。菟道稚郎子を祭神とする神社は珍しいですよ。宇治平等院からそう遠くない場所に「橋姫神社」がある。あの宇治の橋姫伝説である。ここも観光ポイントです。男山の岩清水八幡宮の近くには「松花堂」がある。あの松花堂弁当の元になった場所ということであるが、その松花堂昭乗という人は「豊臣秀次の隠し子」という噂もあつた人物です。面白いでしょ。またまた余談だが、仁徳天皇はオオサザキと呼ばれたが近江のササキ氏（沙沙貴神社）との関連も思わせる。大王陵がミササギと呼ばれるのもここからが元だとされている。いずれにせよ菟道稚郎子命と仁徳の争いは和邇氏と尾張・海部氏（ワタツミ神、住吉神）の海人族同士の覇権代理戦争だつたという話もあります。日牟礼八幡宮に行くと大きな明神鳥居が目につきます。この鳥居は江戸の慶長年間に八幡出身で紀州藩士であつた「日置清順」が京都の三十三間堂の通し矢で優勝した時、紀州の材木を集め寄進したという代物です。作つたのは大工町の高木作右衛門という東寺の五重塔や八幡別院、京都仏光寺の本堂、高田派本山専修寺の如来堂などを作つた有名な高木家です。代々襲名して、日光東照宮を作つた甲良家と近江では並び称されています。時代は下りますが擬洋風建築の白雲館（明治10年当時の八幡東学校）を作つた人（高木一族）も

高木作右衛門です。現在もその高木家は存続しています。興味は尽きませんが、この話はここまでにして、もう一つの古代豪族の話を提起しておこうと思います。話があちこちに飛んで申し訳ないです。最初の白雲和歌の「藤原不比等」とも関係するのだが、万葉歌人で「額田王（ぬかたのおおきみ）」を知らない人は居ないと思う。額田王ほど有名ではないが、同じく万葉歌人であった「鏡王女（かがみのおおきみ）」はどうだろうか。鏡王女は額田王の姉と言われる。鏡王女は近江豪族鏡の里の鏡王の娘で、のちに藤原鎌足の奥さんになった方です。奈良興福寺の起源となる山階寺を建立されました。鏡王女と額田王の父である「鏡王」は壬申の乱のとき大友皇子（弘文天皇）派に付き戦死しています。その墓は千僧供古墳群の中にある（将軍塚か？）といわれています。また鏡王は天日槍の系統の豪族である。苗村や鏡村には天日槍の従者が住んだと記紀にあるからです。（古事記にはアマノヒボコの末裔が神功皇后としているから息長氏とも関係があったのであろうか。これも余談であるが仲哀天皇の父は日本武尊である。応神天皇はその孫ということになる。また継体天皇も応神天皇の五世の孫と称しています。）なお鏡王女と藤原鎌足の子のひとりに藤原不比等（藤原の系統はこの不比等から）がいるので、あながち近江八幡（白雲館）と無関係ではない。この藤原氏族についても謎の多い氏族であるが、話が飛びすぎて筋が外れるので、ここでは省略する。近年藤原氏についての研究も進んできており多くの書籍もでていたので、興味のある方は各自でどうぞ。また近辺の古墳群も多くある中で最近話題の雪野山古墳もその一つであるが、古墳の上に長光寺城が築かれているのである。安土の瓢箪山古墳もそう（狭々城山君＝観音寺城）であろう。高島の稲荷山古墳と同じ前方後円墳であるから安曇氏系であろうと推測される。滋賀県の滋賀も→志賀であり、金印の志賀（シカ）島は安曇氏の本拠地だったところである。安曇野と志賀島・志賀町、渥美などは安曇氏族繋がりなのである。壬申の乱は朝廷側が敗れるという大事件である。名前からして大海人（おおあま）は海人族と関係があるのだろうか。事実、和邇氏は大海人皇子側に付いて功績をあげたとの記録もある。話は前後するが、和邇氏は神功皇后が三韓征伐をする際に出航した対馬の和邇津（ワニの地名）が本拠地であると述べたが、その三韓征伐は、広開土太王の碑に「倭国軍が帯方郡まで攻めてきて新羅から高句麗に救援の要請があった。」と記されていることから倭軍が攻めていったのは事実である。その時代は神功皇后の三韓征伐と符合することから、神功皇后はまだ架空？クエスチョンだが応神天皇は実在したと考えられている。応神～仁徳から河内王朝と云う人もいる。ただ八幡宮系では、応神天皇と神功皇后は祭神として祀られるのに、日本武尊の子である仲哀天皇が除け者にされているのが気にかかるころではあるが。記紀でも仲哀天皇は影が薄い。なおこの三韓征伐に蘇我氏の先祖である武内（竹ノ内）宿禰が登場する。彼は 300 歳生き景行天皇記から 5 代の天皇に仕えた伝説の人物である。当然、日本武尊の東征にも出てきますし、何よりも「長命寺の創建」伝説にも聖徳太子（蘇我氏と親近の間柄）とともに登場しているので覚えておいてください。また、この武内宿禰を住吉神とする説もある。先ほどの「八幡の親は住吉である」の理由は記紀の三韓征伐の項を読めばわかります。

そういった古代近江の歴史にロマン＝神の話に思いを巡らすことも必要ではないだろうか。もう一つ日牟礼八幡宮で書くのを忘れていた。日牟礼八幡宮の祭神は応神天皇、神功皇后と比売神＝宗像三女神（＝玉依姫ともいうと社伝に書いてありますが。）先の二柱は分かるが、なぜ宗像三女神（主に市岐島姫）が祀られているのかということ。これには「びわこ霊ライン」が関係していると思う。対岸の白鬚神社（祭神は猿田彦命、比良大明神ともいうが比良は黄泉平坂であるとの説あり）から沖島（弁財天社＝巖島神社）を見ると、その線上に大嶋奥津島神社（祭神は大国主命と宗像三女神）、と日牟礼八幡宮があり、そのラインは一直線上になる。このラインを地図上で延長していくと伊勢（猿田彦神社・伊勢皇大神宮）に至るのである。これも不思議なことである。滋賀県人なら伊勢の親は多賀である、伊勢に参るなら多賀にも参れとは聞かざらうが、その続きがあって多賀の親は中の庄町にある「天御中主神社」であることまで知っている人は少ない。ただ、これを言い出すと「近江王朝＝邪馬台国説」になり混乱するだろうから、（邪馬台国の台与トヨを神功皇后とする説や伊勢外宮の豊受大神をトヨとする説もあるが、これらは横道になるため省略する。）ここでは「宗像の子は住吉で、住吉の子は宇佐である。」という言葉もあるので覚えておいてください。ただ、宗像三女神にせよ住吉三神（底筒男命・中筒男命・上筒男命）にせよ、この3という数字はオリオン星座の腰に当たる部分の三ツ星に由来するという説があります。なぜなら海洋民族は星座を見て航海するからです。安曇氏の祀る綿津見神三神や神話の三貴神（アマテラス、ツクヨミ、スサノオ）も考え方としては同様なのでしょうか。記紀神話にはトヨタマヒメの出産の項にも「ワニ」が出てくる。また妹の「玉依姫」も神武の母もしくは妻（この場合は建角身命の娘とする説による別神人＝三輪の大物主とも関連が深い）として登場するが、もう一人の「玉依姫」を「＝区別のため活玉依姫と呼ぶ」は賀茂の建角身命（タケツノミノミコト＝八咫鳥の娘で賀茂別雷神（上賀茂の祭神）を生む説でいく。（上賀茂神社・下賀茂神社の由来＝これらは出雲系である。）市内加茂町にある賀茂神社（上賀茂系）も同じ系列とみられる。また「元出雲」と呼ばれるのが亀岡にある「出雲大神宮」であることも最近知った次第である。これらの謂われなども又、別に機会があれば投稿したいところである。最後にもうひとつ。古代に関してもまだまだ言い足りないことは山ほどある。ましてや、中世から近世にかけての近江の歴史は、推して知るべしである。古代以上の引き出しがある。例えば、安土という名称に関して言うと、信長が岐阜と同じような手法で「平安楽土」から安土（城）とした。というのは誤り（俗説）である。安土城が築かれた地は目賀田山（砦跡）である。（そうあの目賀田氏である）隣にあった安土山という名称を気に入った信長が「安土城」としたというのが近年の定説である。では、その「安土」の由来はというと先述した安曇の地＝アドのチ＝アヅチとVGならばご理解願いたいところである。もっとも、岐阜という地名も岐山という中国の故事に習ったというのも、近年では信長以前に岐阜という言葉はあったというのである。岐阜は土岐からきているという説もある。こういったことを書き出すときりがないところだが（足洗の公礼八幡の吉士長丹なども観光ポイントとして押さえておきたいところであるが、吉士系氏族は各地にいる渡来系職能氏族のことで吉士はカバネヤ

称号を指す。秦氏や東漢氏・西漢氏と同じ。)それ故に、昨年にクイズ形式で「(仮)近江八幡検定」としてVG協会ですべてはどうかという意見をVG30周年記念事業のアンケートで提案したところ、役員会で(正解が出せない)と一蹴されてしまった。しかし、事務局長という立場でしつこく食い下がり、何とか記念事業の一つには入れてもらった。でも「検討」である。これを事業としてするか、しないかは記念事業(実施)委員会の委員長次第であるらしいが、私としては、する方向で期待します。やり方や方法はいくらでもある。もっとも歴史に正解なんてあるのだろうか。(明智光秀にしてもクーデターを起こしたから悪とは言いきれない。視点を変えれば天皇を守ったのだから正義だともいえるし、また豊臣秀次にしても秀頼が秀吉の実子でないことに抗議したから悪者にさせられ殺された。という説が有力視されてきている。通説の正解は謀反を企てたからなのか)話があちこちに飛んで申し訳ない。役員会のそれ(=正解しかダメだという)よりもVGとしては雑学の引き出しを多く持ったほうが有益だと思うのは私だけだろうか。VGには歴史が好きで入会した方が何人もいるI氏、M氏、S氏などは私も尊敬するほどの知識を持っておられる。他のVGの方にも(私が知らないだけで)多くの「引き出し」を持っておられると思うので、それら「引き出し」を持ち寄りして(亡くなる前=失礼なことを申しました)「陽の目」(生きてきてVGで活動した証)を見せたいと思うのであるが、どうでしょうか?個人で「知っているだけでは、もったいない」のではないだろうかと会員の皆さんに問いたいのである。ただ、VG会員にも「引き出し」を持っている人ばかりではないと思いやることも必要で、そういった意味ではクイズ形式の「検定」は自己研修にもなると思うのですが、どうでしょうか。一度、議論をして頂きたいのである。最後のほうは、なんかまとまりのない話になってしまいました。話も一貫性がなく、読みづらかったと思います。近江八幡に関わって古代史でも、謎の多い氏族(和邇)を中心に取り上げ、さらに周辺の関連氏族(鏡女王等)についても、観光用の説明(引き出し)としています。なにも私の見識を披露するものではありませんが、とりあえず今の心情を吐露しておきます。

以上